12.12.14(金) 読売(朝) <35> 地域
（第3種郵便物認可）

選挙戦 留学生も注目

立命館アジア大

辞める首相多い／民主的

12 衆院選

衆院選の投票日まであと2日。日本の将来を占う選挙戦に、外国人も注目している。別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）で学ぶ留学生に日本の政治や選挙について聞いた。

（脇田隆嗣、林尭志）

選挙公報を手にする（左から）タイさん、ナディラさん、アザームさん

アジア太平洋学部4年のナディラ・ジキリナさん(22)は2009年9月にインドネシアから来日。日本ではその前から、首相が頻繁に交代していることに驚く。インドネシアの大統領の任期は5年。「批判があっても、辞めたり辞めさせたりしない。日本は、辞める首相が多いのでは」と話す。

ミャンマー出身の同4年、ティン・タイ・ウィンさん(26)は「日本の民主的な選挙制度がうらやましい」と話す。母国では民主化が進み、10年にやっと総選挙が行われたが、ノーベル平和賞を受賞したアウン・サン・スー・チーさんの選挙活動は認められなかった。

スリランカから昨年来日した国際経営学部2年のモハメッド・ナズイール・モハメッド・アザームさん(22)は、選挙ポスターの掲示板に注目。「日本は、ちゃんと場所が決まっていて、誰が立候補しているのか一目でわかる」と感心していた。

08年4月に来日した同3年の高建鎬さん(23)は、大統領選が真っ最中の韓国の留学生。母国の友人と大統領選について交流サイト「フェイスブック」で語り合うが、日本の学生とは選挙の話をほとんどせず、関心が低いと感じているという。

留学生たちは、今回の選挙の争点で、エネルギー政策に興味を示した。原発について、「事故が起きると大変で、心配」「低コストで電気を供給できる。安全性確保に力を入れるべきだ」などの意見が出た。

タイさんは日本の商社に就職が内定。高さんは日本の衛生陶器メーカーで働くことを希望する。「母国と日本の懸け橋になりたい」という思いを抱く留学生たちに、今回の選挙で投票できるとしたらと聞くと、「必ず1票を投じます」と口をそろえた。